

幼稚園の使命

堀 七 藏

一

近頃度々「幼稚園へ子供を入れたらよいでせうか」といふ間に接するのであります。これは幼児を持てる親達が先づ抱かれる疑問でありませう。只に幼児を持てる親としての疑問のみではなく、多くの人々には「幼稚園は不用のもの、贅澤なるもの、強ひて幼児を幼稚園に入園せしむる必要がない」と考へられる方もありませう。時には幼稚園関係者でも幼稚園の使命が何處にあるか明白に意識しない場合がありはしませぬか。私は茲に平素考へてゐる所を述べて、質問に答へると共に幼児保育の常事者として互に覺醒する所がありたいと思ひます。

二

何といつても家庭は幼児の教育せらるべき處であります。母は幼児を保育すべき天職を持ち、重大なる責任を帯びてゐるものであります。幼児は生れてから成人して社會に活動するまでの準備は、家庭に於て主として母から受けるべきものであります。これは八ケましく議論するまでもなく、誰にも明白であるべき事柄であります。しかし人間が一人前として社會に活動し得るに至るまでの準備期は非常に長く、また準備すべき事項が非常に多いのでありますから、一切の準備が

到底家庭に於てのみ行はれ得ないことも、只母だけがこの準備に貢献するのみでは、甚だ不充分なることも亦明白であります。

三

人間以外の動物の如く發達程度の低きものでは、一個體として生活し得るまでの準備は簡單であり、本能的であり、その期間も短いから、債かな親の保護だけで済むのであります。けれども、この事は人間では到底不可能な注文であります。そこで小學校教育も、中等教育もまた専門的職業的の教育も必要となり、是等の教育を施す場所、即ち各種の學校が必要であり、之が準備教育を擔當して、親の代理をなす教師が必要となることは明白な事實で、今更こと／＼しく述べるまでもないのであります。若しこの理論が正しく小學校が必要であれば、また中學校が必要なると同様に、幼稚園も必要な筈であります。尤も小、中學校の教育は親に出来ない。また出来ても、之をその道に堪能な教師に依頼することが成績がよい。特に教育をなすに好都合な設備をなした學校で、準備をなす方が結果がよいのでありますから、小學校は義務教育として國家は強制的に人間としての準備を施す所となつてゐます。只督促せられるが儘に就學させるのは宜しくないのです。また中等程度になれば到底父母に於て一切の準備をなすことが出来ないので、難でも學校に入學せしめることを希望するのであります。

四

しかし幼児の時代には、果して幼稚園に入園させねばならぬでありませうか。この疑問は多くの方々が常に起される筈のものであります。幼稚園入園の必要は左程に考へないが、小學校へ入學の都合上入園させるといふ方も少くありません。

いまた子供が家庭にゐると面倒だから幼稚園へやつて置きますと、簡単にお考になる母親もありません。是等が幼稚園入園の理由として果して妥當でありませうか。

若し母親が他の雑務のために幼児保育を妨げられることがなく、母親にその子を保育する充分の準備があれば、強ひて幼稚園に幼児を入園させねばならぬとは考へられませんが、成程教育の基礎は小學校入學以前の保育に存するのでありますから、幼児保育位重大な務はありませんが、之を母親に於て滞りなく行ふことが出来るならば家庭に於ける保育こそ最大良法であります。しかし世間の母親には専心幼児の保育のみに従事出来ない實情であります。

家庭のいろ／＼の雑務や來客やまた職業等のため幼児の保育を専心行ふことが出来ません。假りにかゝる雑務のない人でも幼児の面倒や保育は却つて乳母や女中やまたは家庭教師に任せる方が少くないのであります。また老人に任せるといふ家庭も少くあります。兎に角上下貧富を問はず今日家庭に於ける幼児は正當なる保育を受けてゐない状態が多いのであります。

従つて幼児の保育は出来るならば幼稚園に於て保姆の手に於て行はれる方がよいといふことになるのであります。

五

幼稚園が家庭の附近にないために入園することが出来ない今日では、是非幼稚園に入園させたいと思つても仕方がないから國家はもつと幼稚園の發達を計畫する方策を取らねばならず、また私立で經營する幼稚園がモット／＼増加することを希望するのであります。家庭に於て母親の保育は不十分であり、子守や女中や小僧相手の幼児の生活は實に不自然なものであります。また老人が幼児を相手としての保育は幼児にとつてはこの上もない迷惑であります。大人老人の身體が自由にまはらないのは活力が消耗しての結果であり幼児の身體がまはらないのは活力旺盛なるも四肢の使用が都合よく行

はれないからであります。よく年寄と子供と著しく似寄つたものにはいたしますが、幼児にとつては甚だ迷惑であります。幼児は決して年寄りや大人との遊戯を好むものではありません。物珍しさに一時は年寄りと遊ぶことがあつても何時の間にか子供同志は老人より離れて遊ぶのが自然であります。この點から考へても子供を家庭にのみ束縛せんとすることは甚だ無理であります。子供部屋の設があり、子供仲間て遊ぶことの出来る家庭は極く少數しかありません。或は皆無といつてよい位であります。

幼稚園は同年齡位の幼児が集つて眞に子供の生活をなしその間に保育せられるのであります。「私どもの子供はなか／＼ませて居りますから」とか「私どもの子どもは遊相手がなくて困ります」とか、「私どもの子は間食をしたがつて困る」とか、いろ／＼申される子供たちは是非幼稚園に入れて眞に子供としての生活をさせるに限ると思はれます。

六

尤も幼稚園は一人の子供のために存するのではなく、また保姆は乳母や家庭教師とは異なりますので、多くの幼児を相手に保育するのでありますから不充分であらうと思はれるならば、それは大なる誤りであります。多數の幼児が共同生活をなす處に幼稚園の使命があり、多數の幼児を一團として保育する處に家庭保育に見られない長所があるのであります。兎角獨子は我儘であることを考へるとこの間の消息が明白となります、また子供は大人の力を借りず自分で自分の用を辨することを非常に希望するもので、「自分で出来ないくせに女中に釘をかけて貰ふ」ことを厭ふ一例を考へ合せても、乳母や女中の行届いた世話が眞に保育の要諦でないことが明白であります。

七

更に幼稚園は幼児の生活に關する研究調査をなして幼児保育の方法を研究することが今日の幼稚園に於ける一使命ではありませんか。進んで家庭に於ける保育の缺を補ふと共に家庭に於ける幼児保育を指導し啓發することも非常に重要な任務であると考へられます、また女學校の教育に於て將來の母たるべき女生徒が保育の方法、保育の趣味、母性愛の陶冶上幼稚園を必要とするのであります。是等は寧ろ遺つた意味に於ける幼稚園の使命であります、實に三省すべき重要事と考へられるのであります。(一四、一、三二)

幼児の口腔衛生について

金 谷 増

幼児の身體養護につきましては主としてその母親の責にあることと存じます、ところが實際におきましては中々さう参りません、いつも幼稚園で園送とともに氣をつけねばならんことが多いのでございます。「お宅のお子さんは結膜炎であるから眼醫者へやつて下さい」あなたのお子さんは耳だれが出て居ますから一度耳鼻科へおつれ下さい」或は「目方が急へつたがどこかに異常がございますまいか」と絶えず注意をしなければならんのでございます。殊に口腔齒牙の衛生につきましては殆ど注意を拂はれて居ないことは實に驚くばかりでございます。これは營に當部内のみならず我が國ではまだ一般に幼児期に於て尤も大切な口腔衛生の事は餘り注意せられて居ないのは甚嘆かましい事だと思ひます。

さて私が幼児の齒に注意を始めたのはかなり以前からのことでございます、まして幼児が最も楽しむお辨當の時間になりまして他の子どもはいそ／＼お箸を取り出すと齒の痛む子どもはシクシク泣き出す、空腹である、食慾が起る、食物を口